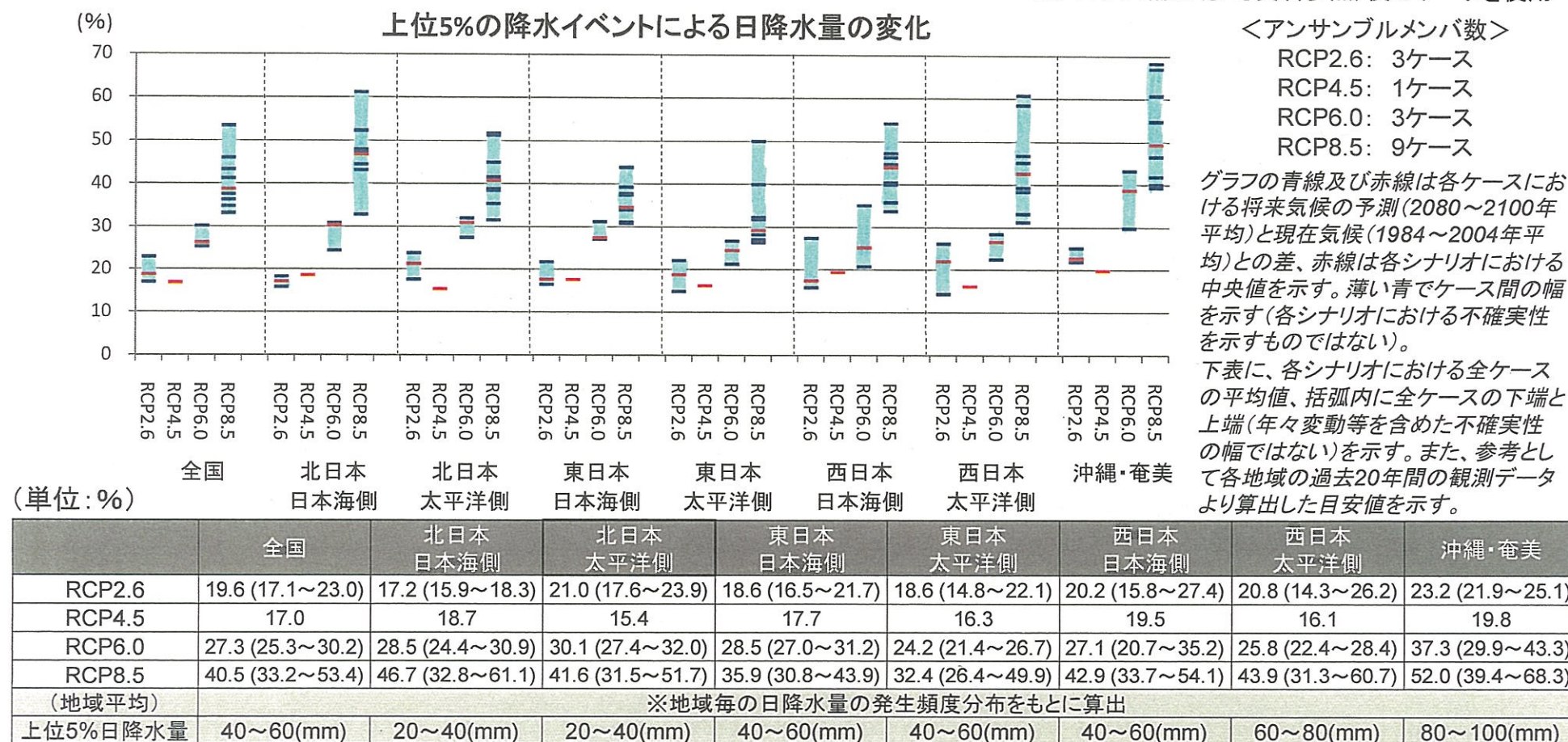


3. 整備された情報の特徴 将来気候の予測／降水(大雨による降水量の変化)

●大雨による降水量(上位5%の降水イベントによる日降水量)の変化

- 大雨による降水量は、すべてのシナリオ・ケースにおいて増加する。

※バイアス補正(参考資料参照)後のデータを使用



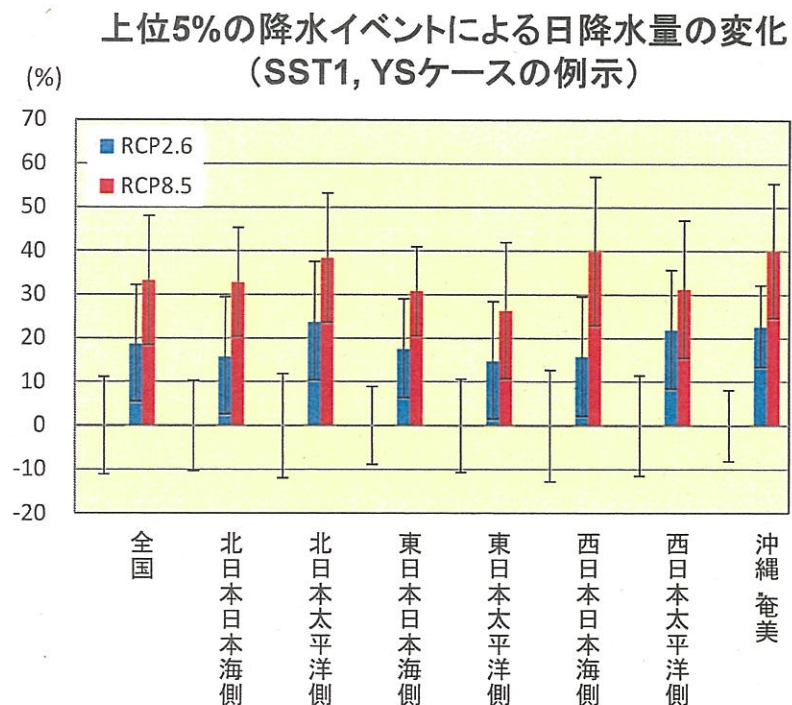
(注)上位5%の降水イベント:各地点における日降水量の総発生回数に対して、降水量の多い方から上位5%の降水現象

3. 整備された情報の特徴 将来気候の予測／降水(大雨による降水量の変化)

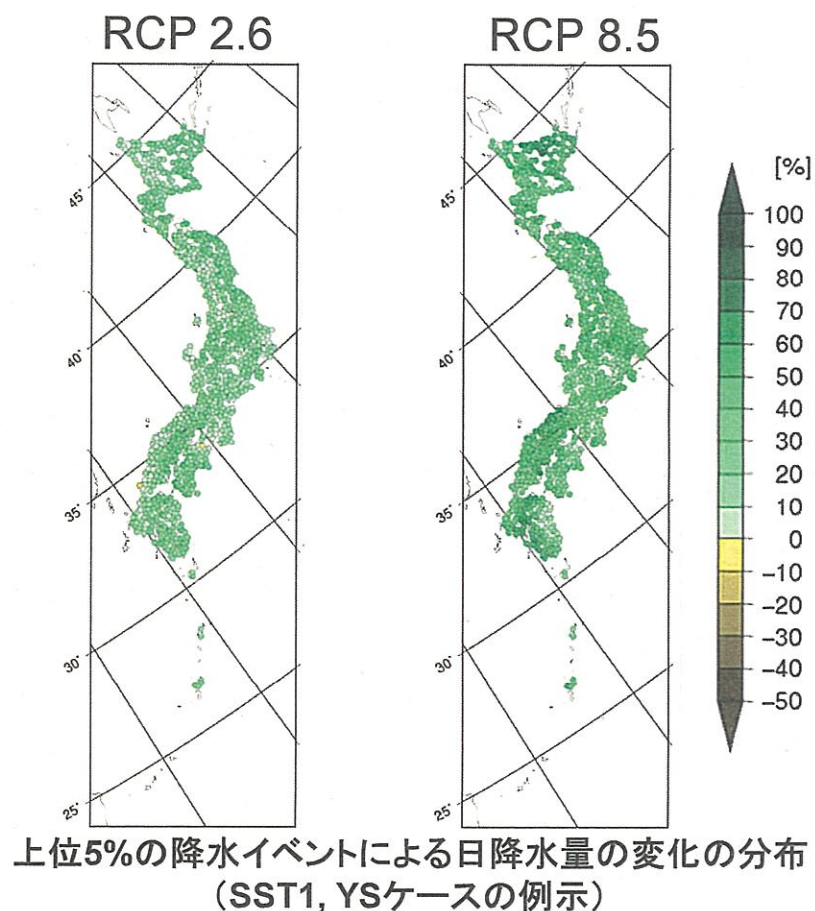
●大雨による降水量の変化の地域分布

※バイアス補正(参考資料参照)後のデータを使用

- 大雨による降水量は全国的に増加し、増加幅は年々変動幅より概ね大きい。
- 以下に、SST1,YSケースの計算結果を例示する。



棒グラフ : 現在気候からの変化率(青:RCP2.6、赤:RCP8.5)
エラーバー : 年々変動の標準偏差(現在気候計算結果との比)
(棒グラフがないもの: 現在気候)



【参考資料Ⅳ】RCPシナリオについて

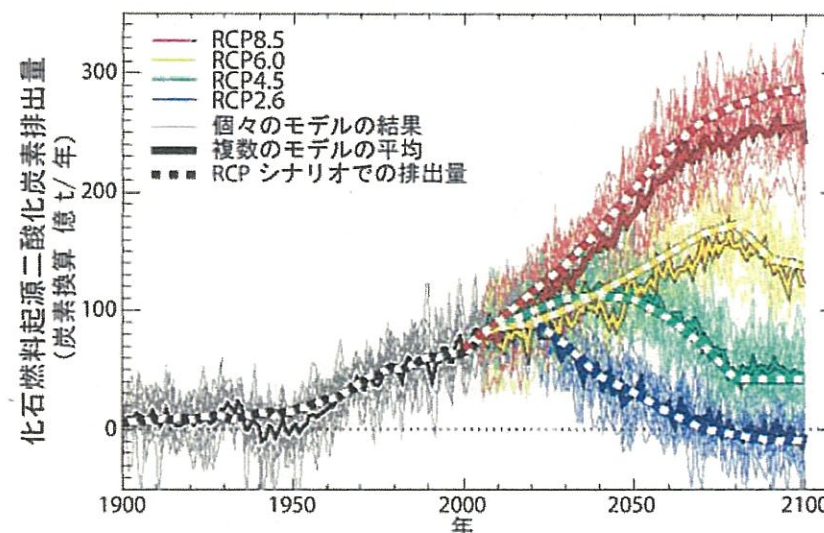
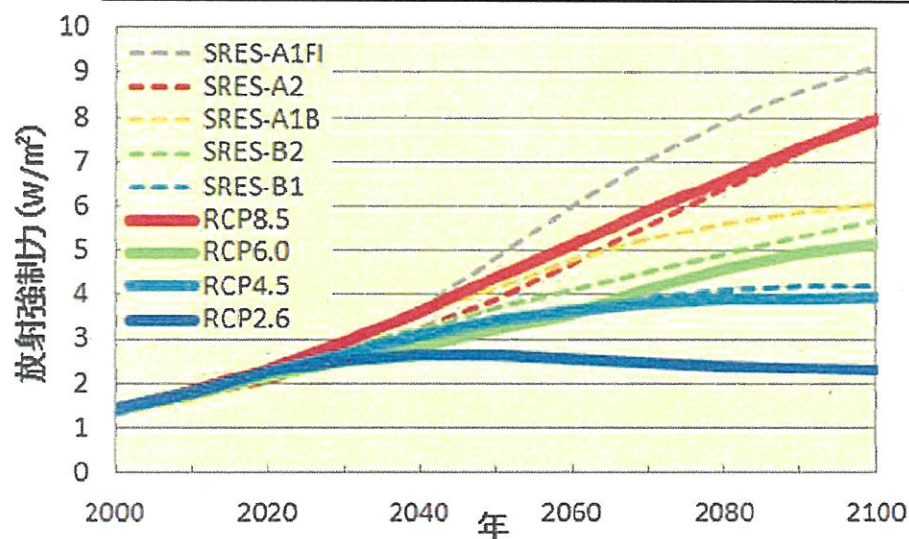
●RCP(代表的濃度経路)シナリオ

- 政策的な温室効果ガスの緩和策を前提として、将来の温室効果ガス安定化レベルとそこに至るまでの経路のうち代表的なもの(代表的濃度経路)を選び作成したシナリオ
- 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書から、このシナリオ区分に基づいた気候の予測や影響評価が行われるようになった
- 従来のSRESシナリオに基づいた予測と違い、目標主導型の社会経済シナリオを複数作成して検討することが可能
- RCPに続く数値は、2100年における1750年に対するおおよその合計放射強制力(単位: W/m^2)を示し、大きいほど2100年における放射強制力が大きい

※放射強制力: ある因子が持つ、地球-大気システムに出入りするエネルギーのバランスを変化させる影響力の尺度であり、潜在的な気候変動メカニズムとしてのその因子の重要性の指標である。正の放射強制力には地表面を昇温させる傾向が、負の放射強制力には地表面を降温させる傾向がある。(IPCC第4次報告書第一作業部会 政策決定者向け要約より)

【参考資料Ⅳ】RCPシナリオについて

シナリオ略称	シナリオ名称	放射強制力の変化
RCP8.5	高位参照シナリオ	2100 年以降も上昇が続く
RCP6.0	高位安定化シナリオ	2100 年以降に安定化する
RCP4.5	中位安定化シナリオ	2100 年までに安定化する
RCP2.6	低位安定化シナリオ	2100 年までにピークを迎えその後減少する



(左)RCP シナリオに基づく放射強制力(RCP シナリオで定める 4 つの放射強制力の経路を実線で示す。比較のため SRES シナリオに基づいて求めた放射強制力を破線で示す。)

(右)RCP シナリオに対応する化石燃料からの二酸化炭素排出量(地球システムモデルによる逆算の結果。細線:個々のモデルの結果、太線:複数のモデルの平均)

文部科学省・経済産業省・気象庁・環境省 2013年9月27日報道発表資料をもとに作成